

## 実践団体情報

記入日	西暦 2019年1月17日（2018年度のチャレンジプラン）
実践団体名	球磨村教育委員会
代表者名	教育長 友尻 憲秀
プラン全体のタイトル	かけがえのない1回きりの命を守るために ～～ 自助・共助・公助 ～～
電話番号	0966-32-1117
メールアドレス	
実践団体の説明	<p>球磨村教育委員会は、熊本県の南部に位置し、村の中央部を日本三大急流の一つ球磨川が流れ、日本棚田百選の棚田や九州最大規模の鍾乳洞（球泉洞）を有する人口約3,700人の小さな村にあります。村政は「防災・ひと・村づくり」を目指しております。村内には小学校2校、中学校1校あり、児童生徒数は約260人です。目指す教育を「ふるさとへの愛着と誇りを持ち、一人ひとりがきらめき明日を拓く球磨村っ子」としてしています。学校教育の重点として、コミュニティ・スクールの充実やICTの効果的な活用等に取り組んでいます。</p> <p>村政の最重要課題の防災に教育委員会として何ができるかを模索する中で、本チャレンジプランに取り組ませていただくことになりました。</p>
所属メンバー	<p>◇球磨中学校 （代表）校長：国武靖士 （担当）防災主任教諭：谷口里佳</p> <p>◇渡小学校 （代表）校長：森 佳寛 （担当）防災主任教諭：中村友紀</p> <p>◇一勝地小学校 （代表）校長：才藤紳二 （担当）防災主任教諭：増永 翔</p>
活動地域	熊本県 球磨村
活動開始時期・結成時期	2018年4月1日
過去の活動履歴・受賞歴	特記事項なし

プラン全体の概要	<p>日本三大急流の一つである球磨川が本村の中央部を流れ、総面積の88%が山林で、村全体が山間部となっており、抜本的な治水対策や急傾斜地対策等は、本村の喫緊の課題となっている。村も、NPO法人（環境防災総合政策研究機構）や国土交通省等と連携しながらタイムライン作成や村民防災会議・ブロック会議等を立ち上げ、ハード面やソフト面で様々な対応策を講じている。そこで、教育委員会として村の課題の解決に向けて何ができるかを模索する中で、チャレンジプランに応募し、小中学校とともに、本村の実態に応じた防災教育のあり方を模索することにした。その中で、防災学習会、村民防災会議等への教職員・生徒の参加、小中合同の防災訓練、「我が家のタイムライン」作成、防災カレンダー作成のための標語・ポスターの募集等の取組をしてきた。</p> <p>これらの取組を通して、特に小中学生が地域の大人の方々とともに、村民として災害に強い地域づくりの担い手となっていけばと願っている。そのことが地域全体の防災意識や防災力を高めるきっかけになればと考えている。</p>
----------	--

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	組織づくり	校長会議で説明	防災主任（担当者等）の決定
5月	村の防災会議を知る	学校へ会議の日程連絡	防災ブロック会議に出席
6月	教職員等が村の防災の現状を知る	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3校合同の教職員研修会で防災研修を計画</li> <li>○気象学集会の参加依頼</li> <li>○球磨川水害タイムライン開催を学校へ連絡</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○役場総務課の防災管理官から教職員研修会で村の災害について講話を実施</li> <li>○気象学習会へ教職員の参加</li> <li>○球磨川水害タイムラインへ教職員の参加</li> </ul>
7月			
8月	防災学習会の説明について防災管理官と打合せ		<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生「防災学習会」実施</li> <li>○中学生「災害ボランティアセンター設置訓練」参加</li> <li>○中学生「防災学習会」実施</li> </ul>
9月	合同防災訓練の計画作成開始		
10月		防災訓練の計画書と内容を役場関係者と協議	
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小中学校と計画書について調整（2回）</li> <li>○中学校との打合せ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○訓練内容の検討と作成</li> <li>○中学生は自分たちでできることを話し合う。</li> <li>○自衛隊、消防署等へ説明と依頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各小中学校で「シェイクアウト訓練」の実施</li> <li>○地域での防災訓練説明会（2回）</li> </ul>
12月			<ul style="list-style-type: none"> <li>○防災訓練準備のため避難所を中学生と設置</li> <li>○小中学校合同防災訓練実施</li> <li>○防災ブロック会議へ中学生が参加</li> </ul>
1月			<ul style="list-style-type: none"> <li>○我が家のタイムライン作成</li> <li>○防災に関するポスターや標</li> </ul>

			語を募集
2月			○防災カレンダーを作成
3月			

<p>プラン全体の反省点・課題・感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同の防災訓練は、小中学生、教職員、地域住民、小中PTA役員、警察、消防団、消防署、自衛隊と大がかりな訓練であったため、趣旨の周知・説明会の開催や関係機関との連絡調整等に大変さはあったが、共助の精神で大変さを乗り越え、有意義な訓練にすることができた。</li> <li>・5ヶ所で開催された村民防災会議ブロック会議への中学生の参加は、残念ながら3名の参加と少なく、今後の課題である。しかし、大人中心の集まりの中で、堂々と感想を述べてくれた。</li> <li>・小中学生の防災意識が高まってくれば、保護者や地域住民の防災意識を変えていくことができるかもしれないと感じた。</li> </ul>
<p>今後の活動予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同の防災訓練は、村の平成30年の5大ニュースの一つに挙げられ、参加いただいた方々からの評価は高かったようだ。小中学校の防災訓練や中学校の避難所運営等にも大変参考になる取組であったので、今後、規模を縮小し、継続していきたい。</li> <li>・「我が家のタイムライン」は、毎年見直ししながら、より実効性のあるものを目指し、取組を継続したい。</li> <li>・小中学生や保護者、地域の方々の防災や減災への関心を高めるために、防災に関する標語やポスターを募集している。今後も防災カレンダーの作成を含めて継続したいと考えている。</li> </ul>

## 実践したプランの内容と成果

記入日	西暦 2019 年 1 月 17 日 (2018 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	球磨村教育委員会
実践番号	1
タイトル	「中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんすごいな！」 「あー、ヘリコプターがやってきた！」
実践担当者のお名前	蔵谷 健 (教育委員会主幹)
実践にかかった金額	30 万円未満
実践の準備にかかった時間	数ヶ月
実践活動を実施した日時	西暦 2018 年 12 月 9 日 8 時 30 分 ～西暦 2018 年 12 月 9 日 13 時 30 分
実践の所要時間	5 時間
実践の運営側で動いた人の人数	32 人 (教育委員会6人・役場防災係2人・中学校20人・小学校4人)
防災教育の対象者の属性	保育園児・小学生 (全学年)・中学生・教職員・保育士等・保護者/PTA・地域住民・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約 450 人
実践を行った都道府県と市区町村	熊本県 球磨村
実践を行った具体的な場所	一勝地小 運動場・体育館 球磨中 運動場・体育館
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	自衛隊 (ヘリコプター・野外炊具・隊員の説明) 消防署 (大規模風水害対策車・消防車、救急車・隊員の説明) 消防団 (小型ポンプ積載車・団員の説明) 国土交通省九州整備局川辺川ダム砂防事務所 (パネル展示)
達成目標	<p>◇実践の目的</p> <p>児童生徒及び教職員の防災に対する学習や、自分の命は自分で守る「自助」、地域とともに災害に対して何ができるかを考える「共助」、そして公的支援としての「公助」を体験することで、いつかくる災害に備えて知識や経験を得ること、そして避難所開設運営を経験すること等を目指して小中合同の総合防災訓練を実践した。</p> <p>◇達成したかったこと</p> <p>「人的被害0」を目指す本村において大きな被害はなかったが、3年前の熊本地震を経験し、県全体で創造的復興に向けて頑張る中で、</p>

	<p>本村の子どもたちに「自分の命は自分で守る」意識の高揚と村民防災会議等に、子どもたちが地域社会の一員（村民）として参画し、直面する村の大きな課題に、大人とともに考える態度の育成を図りたかった。</p>	
<p>どの力を身につけようとしたか？</p>	知識・技能	全く 少し <b>かなり</b> 大いに
	思考力・判断力・表現力	全く 少し <b>かなり</b> 大いに
	学びに向かう力・人間性	全く 少し <b>かなり</b> 大いに
<p>実践内容・方法</p>	<p>小中学校合同防災訓練 行動表</p> <p>【12月8日（土）】前日 9：00～11：00</p> <p>球磨中学校体育館で避難所の設営を実施した。</p> <p>部屋の仕切り・簡易ベッド・簡易トイレ・避難道具の展示、またテントや机の設置を中学生（1、2年生）と実施した。</p> <p>【12月9日（日）】当日 9：00～13：30</p> <p>9：00に球磨村で震度5強の地震が発生し、学校周辺の地域で地滑りが発生したことを想定し避難訓練を実施した。</p> <p>① 小学生の訓練（一勝地体育館で合同での集会中に地震発生）</p> <p>9：00 地震発生と同時に身を守る行動と運動場へ避難</p> <p>9：30 「緊急派遣部隊の研修」（自衛隊、消防署、消防団） 緊急車両や道具について隊員や職員等から話を聞く</p> <p>10：30 「孤立者救出訓練」（自衛隊ヘリによる降下訓練） 車両の説明とバギーへ乗車体験</p> <p>11：00 「大規模風水害対策車」の研修（八代消防本部）</p> <p>11：30 「炊出しご飯を試食」（カレーライス）</p> <p>12：20 終了（校長先生の講評）</p> <p>② 中学生の訓練（授業中に地震発生）</p> <p>9：00 地震発生と同時に身を守る行動と体育館へ避難</p> <p>9：20 避難者の受入準備と班毎に次の支援体制の準備</p> <p>9：30 1班（避難者受入の支援） 体育館の外と中で地域の方が避難してくるため、誘導や受付、介護等の支援を行った。</p>	

	<p>2班（地域支援） 地域の危険箇所等を地域の人のご案内で巡回しながら説明してもらった。</p> <p>3班（保育園支援） 近くの保育園から避難所まで避難する園児を、保育士と協力しながら非難させた。</p> <p>4班（炊出し支援） 8月にハイゼックス炊飯の体験した生徒が中心となって2箇所に別れ、400食分のハイゼックス炊飯を実施した。</p> <p>※今回の班分けに関しては、生徒が自ら考えて必要な物や行動する内容を事前に学校で話し合い実施となった。</p> <p>11:00 「孤立者救出訓練」（自衛隊ヘリによる降下訓練研修）</p> <p>11:20 「大規模風水害対策車」の研修（八代消防本部） 車両の説明とバギーへ乗車体験</p> <p>11:50 「緊急派遣部隊の研修」（自衛隊、消防署、消防団） 緊急車両や道具について隊員や職員等から話を聞く</p> <p>12:30 「炊出しご飯を試食」（カレーライス）</p> <p>13:30 終了（校長先生の講評と村長挨拶など）</p>
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生については、緊急派遣部隊の研修（消防団・消防署・自衛隊）、自衛隊や保護者／PTAによる炊出し、大規模風水害対策車の研修、自衛隊のヘリコプターによる孤立者救出訓練等、「公助」の面で、多くのことを学ぶ機会となった。</li> <li>・中学生は、臨時に開設された体育館1階での避難者（中学校に一番近い地区にお住まいの方々）支援、近隣保育園児の避難支援や非常食運搬支援、地域支援、炊出し支援等、非常時の支援のあり方を学ぶ機会となった。</li> <li>・教職員は、公助のあり方とともに、体育館2階に開設された避難所開設（ダンボールで作られた1家族用部屋、簡易ベッド、簡易トイレ、展示された多くの種類の非常食等）の方法等を学ぶ機会となった。</li> <li>・地域住民は避難訓練とともに、開設された避難所の見学及び消防署員</li> </ul>

	<p>による防災学習会に参加され、防災への意識を高めていただいた。また災害時の要支援者リストの作成にもつながった。</p>	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	全く 少し <b>かなり</b> 大いに
	思考力・判断力・表現力	全く 少し <b>かなり</b> 大いに
	学びに向かう力・人間性	全く 少し <b>かなり</b> 大いに
課題・苦労・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中合同の防災訓練が当初の予定より規模が大きくなり、承諾や周知のための文書発行・説明会開催や関係機関との連絡調整、打ち合わせ会の開催等、多忙感があった。役割分担が不十分で、教育委員会の担当者の負担が大きかった。</li> <li>・小学生の対応に難しさを感じた。特に「共助」の場面の設定ができなかった。</li> <li>・訓練当日の小学校・中学校・住民の方々・炊出し担当の方々の動きを時系列に整理された行動表は、全体像が掴め、工夫されていて、とても参考になった。</li> </ul>	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	各小中学校の担当の先生、地域住民の方

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	小学生（上級生）・中学生
伝えたい内容	<p>災害が発生した場合、まずは「自分の命を自分で守る方法を知ること」が大事で、日頃から家庭で話し合い、行動を決めておくことも重要。</p> <p>また、避難するときや避難所で小さな子どもや高齢者の方が困っていたとき、小学生や中学生も地域住民の一人として協力できることがあること。また協力できることが十分に地域の力になることを知ってほしい。</p>